

Weekly Bulletin

2019-2020



RI会長

マーク・ダニエル・マローニー



ロータリーは
世界をつなぐ

静岡東ロータリークラブ

会長／新聞桂子 幹事／森下登志美

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 木曜日 12:30～13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>

会長

新聞桂子

第 2915 回例会

令和元年 8月29日 天候晴れ

- 《司会》 森下 登志美 君
- 《合唱》 「手に手つないで」
「静岡東ロータリー」
- 《BGM》 リムスキー＝コルサコフ
「交響組曲 シェヘラザード」
- 《ゲスト》 一般社団法人 静岡青年会議所
2019年度理事長 飯塚 潤 様
- 《ビジター》 なし
- 《本日のお祝い》
お誕生日 結婚記念日
該当者なし 該当者なし

《ソングリーダー》 肥田 隆輔 君



急なご指名で驚いております。
本日は2曲です。頑張りたいと思えます。

《会長挨拶要旨》 新聞 桂子 会長

7月の末に地区のロータリー財団セミナーがあり、望月先生と参加して参りましたのでその報告をしようと思えます。

ロータリー財団の活動というのは、1917年(大正6年ですね。)当時会長であったアーチCクランプが「世界でよいことをするために基金を作るのが、きわめて適切だと思われる。」と演説したことにより始まりました。この演説から「世界でよいことをしよう」がロータリー財団の標語となっています。

ロータリーの創設者であるポールハリスは亡くなる時「追悼は花束ではなく財団への寄付を」という遺志を伝え、このときの寄付がロータリー財団の発展のもととなって役立てられました。当初26ドル50セントであった基金への寄付が何十億ドルという財団の布石となったのです。



現在ロータリー財団の基金の運用益からなる地区補助金とグローバル補助金の二つの補助金システムは、6つの重点分野を中心に世界中で行われている多様な奉仕活動への補助金として利用されています。具体的には地区補助金の活用推進、グローバル補助金の推進、人道的プロジェクト、ポリオプラス、財団奨学生、財団学友のサポート、平和フェロシップです。本年度グローバル補助金奨学生としてイギリスのバーミンガム大学院に派遣される中澤涼介さんは、移民難民を受け入れる人々の寛容さの解明、寛容さの数値化という研究課題をもって、外国人労働者の問題や、アメリカでの難民支援の研修プログラムの研究開発などを、政治心理学学者テレサキャベロス教授の下で行うそうです。

皆さんは、財団寄付を特別会費というかたちで1年に120ドル寄付しています。どのくらい寄付しているのかは、クラブ運営計画書の中に載っていますのでご覧になって下さい。当クラブでは地区補助金として南部支援学校の植栽活動への補助をいただいております。この補助金で植栽に使う苗などの購入代金の半分をまかっています。

ちなみにロータリー財団はチャリティーナビゲーターによりその健全性と透明性につき4つ星をいただいているそうです。

《来賓卓話》

一般社団法人静岡青年会議所

2019年度理事長 飯塚 潤 様

「明日の笑顔が溢れるしずおかに向けて」



私たちの目標は、「明るい豊かな社会の実現」ですが、静岡市の第3次総合計画と共鳴をする形で10年間の活動・運動指針が定められており、これを元に各年度の理事長を中心にその運動の方向性を決めているわけでございます。

今年は、女性のエンパワーメントを高める、会員の潜在的な能力を引き出すこと。ポテンシャルであったり、過ごしやすい環境を整えていくのかという点に力を入れております。私たちがより良いまちづくりをおこなうのであれば、女性の声は必要不可欠であり、約半数が女性の会員でもいいわけです。しかしながら、そうはなっていない現状というものを変えていかなければなりません。産休制度や託児所の完備等、ルール、環境といった側面での整備を進めております。

続きまして、青少年育成事業です。まちの未来を描いていくのは、子どもたちであると私たちは考えます。心であり、体であり、すべてにおいて成長多感である青年期にうける刺激というものは、こどもたちに大きな成長をもたらします。

次に私たちの運動のなかでも、直接的にまちにアプローチが出来ます、まちづくり事業について触れさせていただきます。本年は、静岡市初の静岡市民映画の製作をおこなっており、今現在撮影をおこなっております。この事業は、人と人のつながりを強くしていきたい。もっとこのまちの市民に、自分自身の生まれたまち、静岡のまちを好きになってほしい。もっともこのまちの魅力に気づいて欲しい。ひいては人口流出、人口減少に歯止めをかけたい、その思いから事業が行われています。

そして、現在私たち静岡青年会議所が力をいれておりますのが、SDGs・持続可能な開発目標に対する取り組みです。持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。このSDGsの認知の向上とともに、具体的なアクションを起こしています。私たちがおこなう事業との紐付けも強いものとして、持続可能な社会の創造へと歩みを進めているところでございます。近年では様々な企業でもその取組をおこなっており、私たちの業界で言いますと、LIMEXといった新素材の普及を元にした運動が挙げられます。このLIMEXは、プラスチックや紙に変わるリサイクル可能な新素材として注目されています。世界で多くの貯蔵量が確認をされている石灰石を主原料として、これまでの紙に比べると、非常に多くの水を節約でき、森林を保護することが出来る意味から、環境に優しい。ゴー

ル6、13、14、15、そして、12の目標達成に近づく取り組みになります。皆様が記憶に新しい東京ガールズコレクション in 静岡。この中でもSDGsの認知向上に対する取り組みがなされておりました。このコレクションの誘致に関して、JCが大きな力を発揮したわけでございます。

JCではよく自己成長という言葉をお口にします。ではなぜ、人がみんなが、より良く変わる必要があるのか、それは、私たちがビジネスパーソン・青年経済人であるからです。仕事というものは、常に変化の連続です。今ここにいるメンバーの皆様の仕事・たゞしくはビジネスモデルの多くは100年前には存在しないものでした、もしかしたら10年、20年前にすらなかったかもしれません。（100年前からあるという人は、100年前と全く同じことをやっているか考えてみてください）変化に対応して、変われない人はいくら努力しても報われることはないでしょう。そして、今の時代の移かわりは本当に早いのです。だからこそ、今の時代にJCは必要なのです。私たちに「より良く変わる場」が必要だと考えます。なぜなら、自分自身で引いたルールの上、快適で制御可能な「心地のいい場」ではあなたを変える全てのきっかけがマイルドなものにしかならないからです。

結びに、私たち青年は、自分自身に誇りを持ち、常に変化と成長を追い求めていかなければなりません。それが私たちの生きる力であり、世界に新しい価値を生み出していくのです。しかしながら、その道は決して楽なものではなく、常に困難という大きな壁が立ちまわります。だからこそ、私たちに家族がいます、友人がいます、そして同じ目線で話をし、同じ立場で戦う仲間が必要なんです。私たちは、私たちは、辛く苦しいときこそ、自らの魂を奮い立たせ、仲間と共に、互いに叱咤激励し、心を寄せ合い、力強く、歩んでいかなければならないのです。それがたとえどんなに高い壁だろうとも、多くの仲間と、心を共にすることで、その大きな壁の向こうにある成長を手にすることができるのです。それが私たち青年の特権です。

《スマイル報告》

杉田 至弘 君 皆勤賞ありがとうございます。来週台湾の方々がお見えになるのに休みます。ごめんなさい！スマイルします。

長谷川 泰 君 遅ればせながら二年間皆出席のお祝いありがとうございます。今年度も元気に出席したいと思えます。

《出席報告》

| | 会員数 | 出席 | 欠席 | MU | 完全欠席 | 確定出席率 |
|------|--------|----|----|----|------|-------|
| 8/29 | 49(48) | 36 | 12 | - | - | - |
| 8/22 | 49(48) | 36 | 12 | - | - | - |
| 8/8 | 49(48) | 41 | 7 | 4 | 3 | 93,8% |

(会報作成 林田 尚翁)